

## 資金別貸借対照表とは

現金預金	[ 損 益 資 金 の 部 ]
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">どんなことがあっても、増やさなければならぬ資金です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての取引が現金取引かつ損益取引であればこの資金だけで、財務が分かりますので、財務分析に問題は起こりません。</li> <li>資金会計理論では、その他資金の取引も現金取引かつ損益取引としますが、財務分析は重要です。</li> <li>・創業以来の損益の累積金額です。勿論、プラスでなければなりません。企業は本来、この資金相当額が残ればいいはずです。</li> <li>・この資金が増えなければ、金融機関から見放され、いずれ倒産してしまいます。従って、節税と称して、この資金を減らすことは絶対にいけないことなのです。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">資金バランスに注意しながら、調達運用をして下さい。</p>	<p style="text-align: center;">[ 固 定 資 金 の 部 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスが良いとか、マイナスが悪いという判断はしません。</li> <li>・一般的な状態における優良企業は、この資金はマイナスです。</li> <li>例外として、極端に長期借入金や社債の発行額や資本金、資本準備金が多い場合は別です。</li> <li>・マイナスには、損益資金 &gt; 固定資金の場合と損益資金 &lt; 固定資金の場合があります。</li> <li>前者は問題ありませんが、後者の場合は、売上仕入資金のプラス資金か流動資金の短期借入金、割引手形、CP で資金補填がなされています。</li> <li>・この資金が存在するのは、損益を増やすためです。勘定科目の働きに注意して、より働くようにしたいものです。例えば、棚卸を今の2倍にしたら、損益資金が増えるということであれば、在庫を増やさなければなりません。問題はその相手勘定です。</li> </ul>

<p>資金バランスに注意して下さい。</p> <p>損益資金を支える資金です。</p>	<p>[ 売 上 仕 入 資 金 の 部 ]</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業継続を前提にした場合、損益資金と同性格の資金です。</li> <li>・従って、「勘定合って、銭足らず」とは損益資金がプラスで売上仕入資金がマイナスの財務体質をいいます。注意点として、事業規模の拡大は要注意です。マイナスを圧縮する努力は必要ですが、過ぎると損益資金が減少する場合があります。</li> <li>・今後、金融機関は長期運転資金の融資を増やします。この資金のマイナスを生かして、事業拡大する方法が考えられます。その絶対条件として、損益資金が増えることです。</li> </ul>	
<p>資金別貸借対照表の特徴は安定資金があることです。</p>	<p>[ 安 定 資 金 計 ]</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字通り、プラスであることが大切です。何故なら、企業の経済活動は損益資金、固定資金と売上仕入資金の3つが重要だからです。</li> <li>ただし、短期借入金、割引手形を事実上、長期借入金としている場合は例外ですが、短期借入金や割引手形に頼りすぎる企業は財務に対する考えが甘くなる場合があります。</li> <li>・マイナスになる場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 期借入金の返済財源(増加額) &lt; 長期借入金の返済額</li> <li>② 損益資金の減少    ③ 固定資金運用の増大</li> <li>④ 売上仕入資金のマイナスの増大</li> </ul> </li> <li>いずれにしても、安定資金のマイナスは財務が歪になっています。資金バランスが崩れています。</li> </ul>	
<p>運用の無駄には注意しましょう。</p>	<p>[ 流 動 資 金 の 部 ]</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この運用は安定資金の範囲内であることです。</li> </ul>	
	<p>合計</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1～2ヶ月分の資金があれば、資金繰りに煩わされず経営ができます。</li> </ul>

## < 用語解説 >

取引…資金の流れ、資金の移動

勘定科目…資金、資金の性格・資金の変化を表示したもの

仕訳…資金の流れ・資金の移動を表示すること

財政状態…金廻りの状態、勘定科目の状態(人間でいえば健康状態)

財務体質…本来残るべき「損益資金の額」が「合計資金額の額」になった原因

※ 能動的財務体質…経営者の性格、癖などで形成される財務体質

受動的財務体質…事業種目で形成される財務体質

財務分析…資金分析、勘定科目(の貢献度)分析

財務強化…現金を残し、増やすこと

※勘定科目の変換をすること、新しい勘定科目を設定すること

勘定科目の働き…1. 自身でどれだけ現金を稼いだか

2. 他の勘定科目にどれだけ影響を与えたか

M A S業務…資金バランスを考えての資金の調達、運用指導

財政状態の判断とより良い財政状態の構築指導

※資金バランス…資金循環状態、資金の調達・運用の状態

F P ・ 節 税…現金を残し、増やすこと

より良い財政状態の構築

※FP4原則 1. 安全性—元金保証

2. 換金性—即時現金化可能

3. 利益性—必ず利益発生

4. 管理性—管理が簡単

事業計画…資金計画

勘定合って銭余る…「損益資金 $+$ 、売上仕入資金 $+$ 」の財政状態、財務体質

勘定合って銭足らず…「損益資金 $+$ 、売上仕入資金 $\Delta$ 」の財政状態、財務体質

勘定合わず銭余る…「損益資金 $\Delta$ 、売上仕入資金 $+$ 」の財政状態、財務体質

勘定合わず銭足らず…「損益資金 $\Delta$ 、売上仕入資金 $\Delta$ 」の財政状態、財務体質

自転車操業…「損益資金 $\Delta$ 、固定資金 $\Delta$ 、売上仕入資金 $+$ 、流動資金 $\Delta$ 」の

財政状態、財務体質

バブル経済…固定資金の無制限な資金調達

財務主導型経営…現在の財政状態、財務体質を知り、未来の財政状態、財

務体質の変化を見据えた経営